

平成27年度 学校経営全体構想

県基本目標 とくしまの教育力を結集し 未来を創造するたくましい人づくり

市基本方針 共に生き、豊かな心で個性輝く人づくり

学校教育目標

- (1) 津乃峰町に深い愛着と誇りをもち、自主的・自立的・創造的能力に富んだ児童を育てる。
- (2) 基本的人権を尊重し、人間性豊かで心身ともに健康でたくましく生きぬく児童を育てる。

研究主題

ユニバーサルデザインに基づく環境づくり、授業づくり
 — 子どもが理解しやすいよう配慮した指導方法の工夫・改善をめざして —



めざす学校像

- 楽しい学校
- 美しい学校
- 生き生きとした学校

めざす子ども像

- 自分から学ぶ子
- 明るく助け合う子
- やりぬく子
- じょうぶな子

めざす教職員像

- 子どもを中心に据え、子どもと共に歩む教職員
- 研修に努め、創意工夫を絶やさぬ教職員
- 互いに補い合い協力し合う教職員

学校経営の基本方針

- (1) 個に応じたきめ細やかな指導により、基礎・基本の確実な定着を図り、子どもに「生きる力」をつける。
- (2) 声かけや褒めること、活躍する場を多く作ることで、自尊感情を育て、子どもの規範意識を高める。
- (3) 学校・家庭・地域社会との相互連携により、地域から信頼され、安心・安全な学校を目指す。
- (4) 教職員がお互いに補い合い協力し合うことにより、津乃峰小学校全体の教育力を高める。

基本方針を達成するための具体的な活動

- (1) 学習指導では、丁寧で分かる授業を展開し、一人一人の子どもの学力向上を図る。
- (2) 特別支援教育では、正しい認識と理解のもと、個別の指導計画に基づき、一人一人の子どもの実態に応じた適切な指導を推進する。
- (3) 学級経営では、常に立場の弱い子どもを中心に据え、「いじめ」や「差別」を絶対に許さない毅然とした態度とともに、子どもの生活実態に目を向け、子どもの「なかまづくり」を大事にする。
- (4) 家庭や地域と連携し、避難訓練や避難所運営等の防災・減災の取組を推進する。
- (5) 決して一人で悩まず、「ホウ・レン・ソウ」が自然にできる風通しのよい職員室、子どもたちがうらやましがる教職員集団を作る。

学校スローガン「子どもたちの命と未来(夢)を大切に育てる津乃峰小学校」

本年度の重点事項

授業のよく分かる学校

- 基本的な生活習慣の定着及び家庭教育力の支援
 - 家庭学習の手引き等の活用
- 基礎・基本の定着
 - 朝の活動「はげみタイム」の充実
 - 聞き方・話し方「あいさつ」の活用
- 読書の推進
 - 毎月1回の全校一斉読書の時間の設定
- 学習意欲・関心の向上
 - 体験活動・表現活動・探求学習の充実
 - 話し合い活動の充実
 - チャレンジコーナーの実施
- 立腰教育の推進
- 一人一人の特性に応じた指導
 - 基礎的環境と合理的配慮の整備
- ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境・授業の実践
 - 環境の構造化・板書・発問の工夫
 - 特性に応じた提示の工夫
 - ITCの活用
 - ノート指導の充実

いじめのない学校

- 津乃峰小学校いじめ防止基本方針の周知・徹底
 - アンケート調査を年3回実施
 - 保護者、地域と連携した早期発見・早期対応のための取組
 - 関係諸機関との連携強化
- 自他ともに大切にしている児童の育成
 - 人権教育・道徳教育の推進
 - (自尊感情の育成、承認賞賛の場づくり、規律ある生活の定着)
 - 特別支援教育の推進
 - (全教職員で取り組む支援体制づくり)
 - 異年齢班(ふれあい班)活動の充実
 - 全児童を全教職員で育てる体制づくり
- 地域に愛着や誇りを持つ児童の育成
 - あななん観光PR隊活動の実践(修学旅行での阿南市PR活動)
 - 地域のゲストティーチャーを招いての地域・歴史学習の実践
 - 津乃峰保育所との連携(児童による出前授業の実施)



防災に強い学校

- 実践的防災教育推進事業を活用した活動の推進
 - 緊急地震速報受信システム設置とそれを利用した避難訓練等に係る指導方法の開発・普及
 - 県防災センターでの防災体験学習の実施(1～3年)
 - バスを利用した避難所訓練の実施(4～6年)
 - 防災マップづくりと津乃峰町全世帯への配布(6年)
 - 防災協定に基づいた保護者や地域参画の避難所運営の構築
 - 「行動につながる態度」の育成に資する防災教育の構築
- 防災対策推進委員会を中心としたPTA活動の推進
 - 保護者による、教室等の飛散防止フィルム貼り
 - 児童用非常食の購入と管理
 - 避難所の管理運営の構築

児童スローガン「あいさつ日本一」「えがお日本一」「おそうじ日本一」